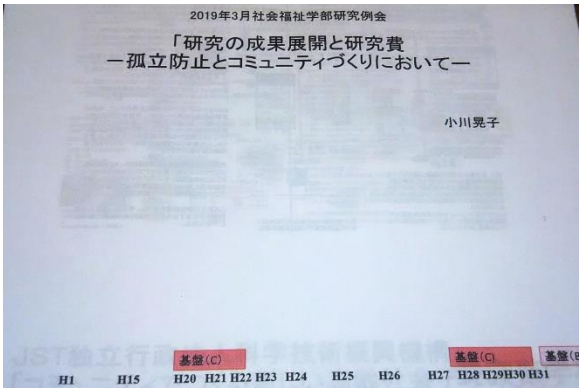
2018 年度第 6 回研究例会

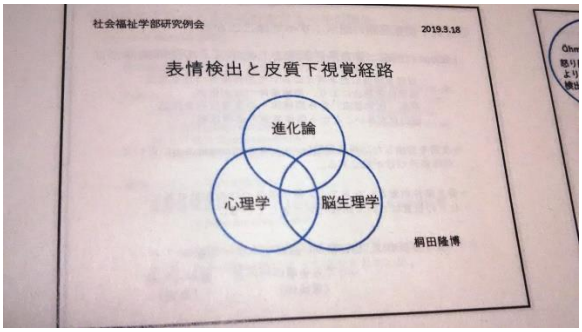
日時：2019 年 3 月 18 日（月）13:00~14:30
会場：社会福祉学部棟 301 講義室

＜第 1 報告＞
報告者：小川晃子教授
題名：「研究の成果展開と研究費―孤立防止とコミュニティづくりにおいて」



小川晃子教授より、高齢者の孤立防止に関する自身の研究の展開についてご報告を頂いた。小川氏はこれらの研究を、地域住民及び多数の共同研究者との協働によって進めてこられており、うまくいく協働の方法についても説明がなされた。また小川氏は科研費、民間財団、本学助成など過去様々な研究助成を受けているが、研究費獲得方法にも話は及んだ。小さな実績の積み重ねが、数年後の大型の研究助成採択につながっていくことを、具体的エピソードとともに述べられた。

＜第 2 報告＞
報告者：桐田隆博教授
題名：「表情検出と皮質下視覚経路」



桐田隆博教授より昨 2017 年度のサバティカル研修の成果についてご報告を頂いた。桐田氏によれば、認知心理学、脳生理学分野の表情・感情に関する研究では、怒り顔が他の感情に比して検出されやすいという標準仮説が存在してきたという。この「怒り優位説」はこれまで進化論も援用して基礎づけられてきたのだが、いささか実証的には疑わしい面があった。桐田氏は、怒り優位説に関連する諸議論を紹介した上で、それぞれに対し批判的な考察を示された。